

城田西集落営農組織 意向調査結果

□平成 25 年 8/29,9/3,5 に、共乾役員及び関係機関が集落営農組織の役員さんへのヒアリング形式で整理。主な聞き取り項目は以下。

- ① オペレータ ② 離農者の耕作請負 ③ 地区外からの入作問題 ④ 役員の高齢化固定化
⑤ 事務経理で事務量専門知識世代交代問題 ⑥ 高齢者の理解不足 ⑦ 法人化への課題や問題
等について各集落（営農組合）の役員よりヒアリングを実施

【質問①】オペレータ不足の問題はありませんか？

- ・現在、60才代のオペレータが中心となって運営されている。40～50才代のオペレータは、会社に勤めで、土日を中心に乗っており出役の調整が大変である。60才代のオペレータが高齢化する5年～10年後に危機感を感じている。

【質問②】離農者の耕作請負が集落内で出来ていますか？

- ・大部分の営農組合では、出てきた田を役員の方が中心に請け負って何とか回している。
しかしそれが限界と考える営農組織も多い。

【質問③】地区外からの入作で問題は発生しませんか。

- ・離農者の農地は、集落内で対応する仕組みが各集落で出来ており、今までは入り作はほとんどなかった。今後、集落内で対応できない場合は、問題化する恐れがある。

【質問④】役員の高齢化や固定化での問題はありませんか？

- ・役員の固定化による問題と輪番制による弊害があり、今後集落営農をステップアップするためには、リーダーの吸引力が必要であり、それに見合うだけの報酬を考えていかなくてはいけない。ボランティアではない。

【質問⑤】事務経理で、事務量や専門的知識および世代交代等での問題はありませんか？

- ・会計は交付金の仕分け等に慣れる必要がある。役員の中でも長期に担当している場合も多い。いずれにしても会計は負担が大きい。

【質問⑥】高齢者の構成員（農家）に集落営農への理解が低く、協力が得にくいなどの問題がありますか。

- ・自分でやれる農作業は自分でやりたいと考えている。

【質問⑦】法人化への課題や問題点はありませんか？

- ・法人化とは何か。またどう進めていいかわからない。
- ・法人化を検討する場合、集落単位では難しいので、共乾単位で検討して欲しい。